

観光地経営計画について

■ 計画策定の背景

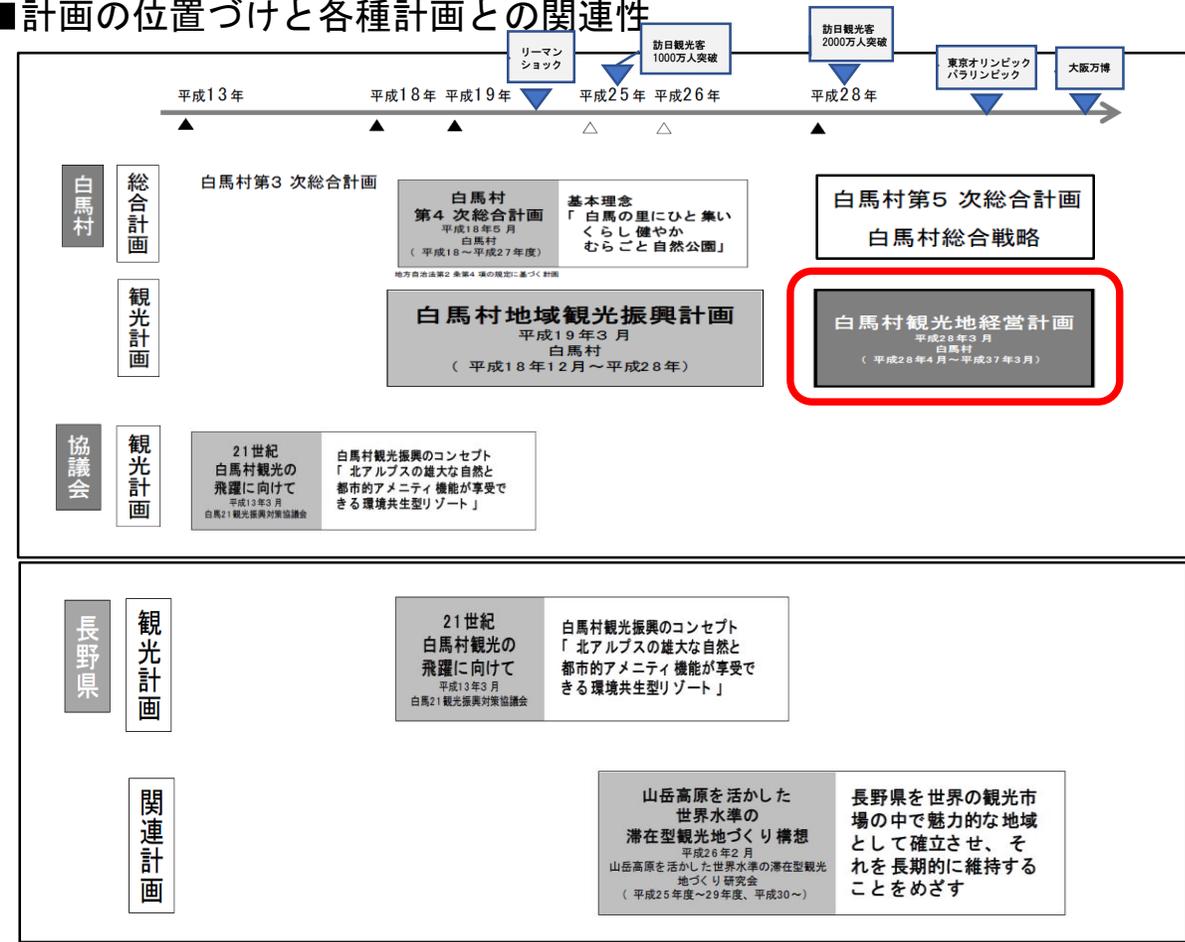
白馬村は、白馬岳をはじめとする北アルプス白馬連峰という象徴的かつ魅力的な山岳に抱かれ、登山やスキーのフィールドとして圧倒的な資源性を有しているものの、観光客数の減少傾向が続いていることやオーストラリアを中心とする海外からのスキー客が増加していることなど、取り巻く環境の変化は著しく、その将来を楽観視できない状況です。

こうした変化の中にあっては、ハード面での基盤づくり、ソフト面での魅力づくりや受入体制づくりにとどまらず、それらを刻々と移り変わる社会環境の中で持続的・継続的に活かしていくための地域経営的な視点が求められています。

■ 計画の位置づけと計画期間

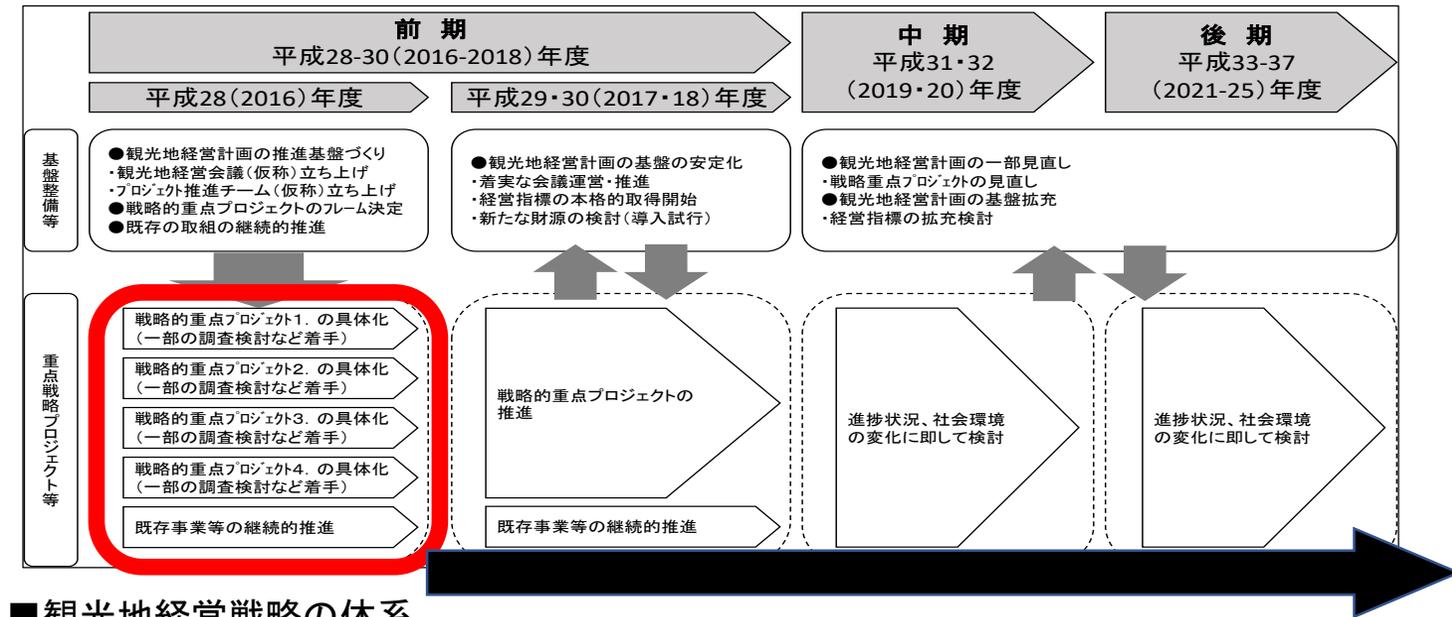
本計画は、平成28年度を初年度とし、平成37年度を目標とする10年間を計画期間と定めます。なお、期間中においても、計画の進捗状況や社会情勢の変化等に合わせて、必要に応じて、適時計画の見直しを図るものとします。また、本計画は、期間中に策定が予定されている「白馬村第5次総合計画」、「白馬村総合戦略」に先行して策定されるものであり、同計画の部門別計画として位置づけられるものであり、整合性を図るものとしてします。また、その他白馬村の観光に関する計画の内容も踏まえつつ策定します。

■ 計画の位置づけと各種計画との関連性

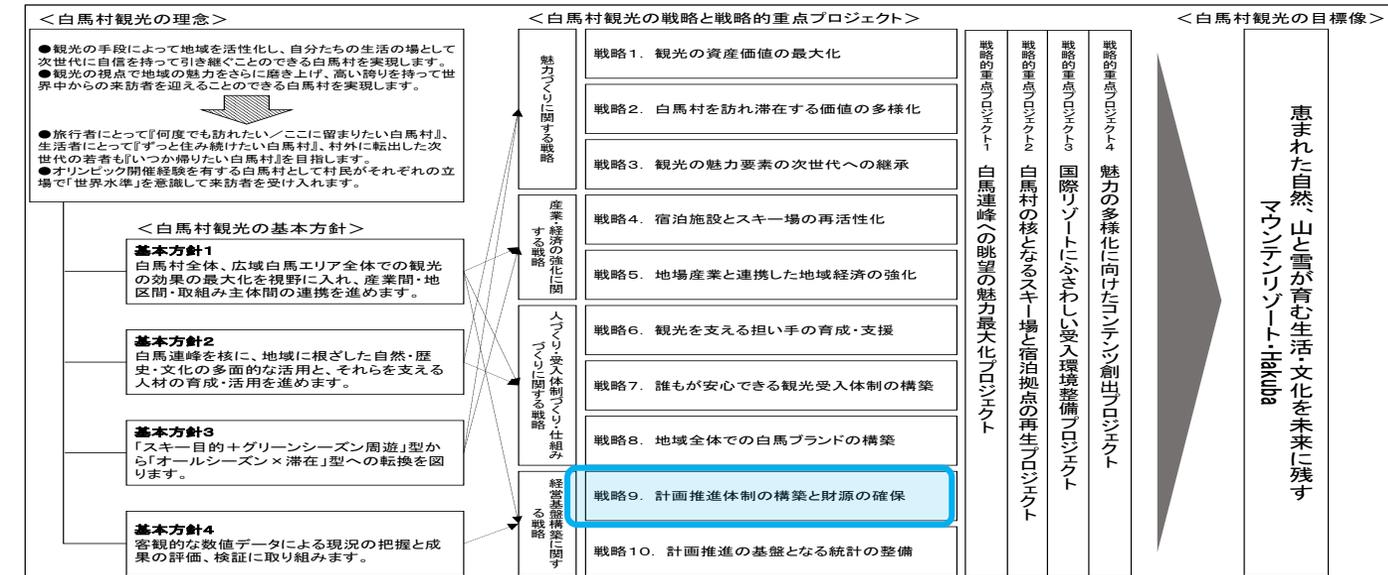


観光地経営計画について

■計画推進のスケジュール



■観光地経営戦略の体系

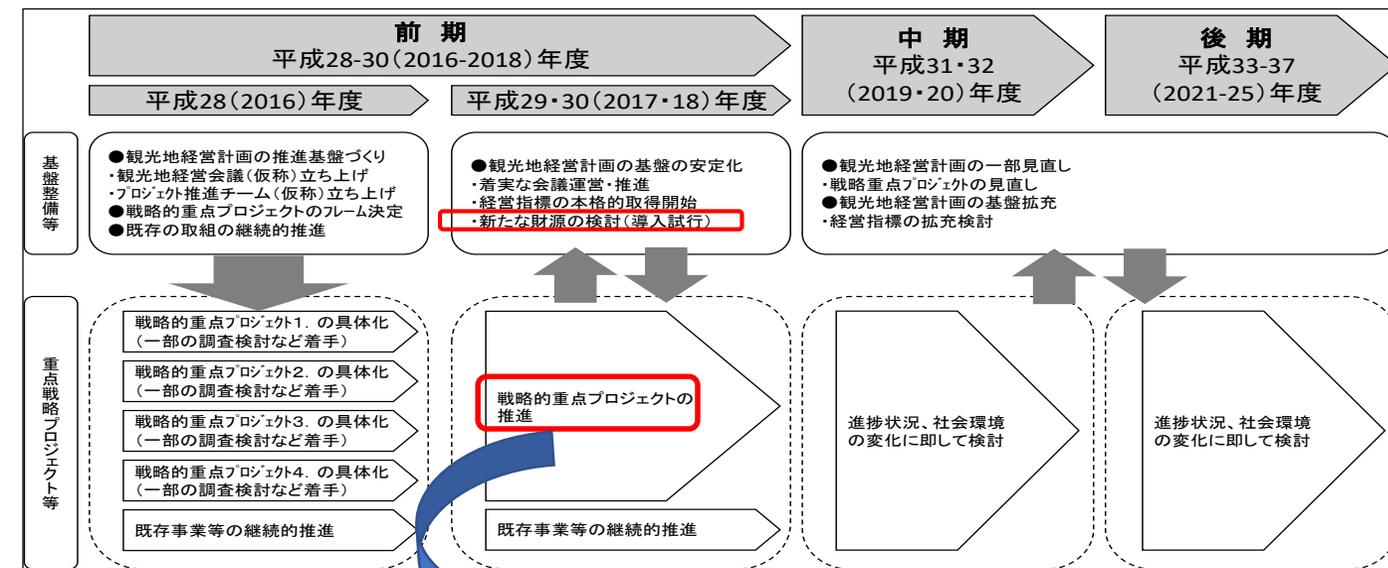


既に着手した事業

戦略	施策	実施した事業名	事業実績 (数値的な結果)
戦略1	1-1 山岳景観の魅力向上	北尾根高原にフラワーネイチャーパーク、ご来光デッキ、キャノピーウィーク、ツリーデッキ、散策道整備、展望台整備を行いお客様をお迎え。	1057名の集客。
	1-1 山岳景観の魅力向上	起業支援補助事業	1件の空き店舗の解消
	1-3 滞在空間としての魅力向上	環境審議会	年4回実施
戦略2	2-1. 季節それぞれの新しい楽しみ方の創出	平川 水と親しむイベント	参加者 保護者含めて 約100名
		平川 観察会	約30名(昨年度 実績)
		砂防ツアー	約25名(昨年度 実績)
		あずみのセンチュリーライド 桜 緑	4月 1500名、5月 3,000名参加。
		「Xtrem Aventures HAKUBA TSUGAIKE WOW!」(HAKUBAVALLEY)	開業3ヶ月(8月1日~10月31日)で8,000人超の利用。
白馬村を訪れ滞在する価値の多様化	2-2. 食と温泉を活用した滞在魅力向上	第2期白馬村食育推進計画策定	計画に地産地消の推進を基本目標の一つに位置づけ。策定委員会で地産地消推進計画(H26-28)の結果を評価
		白馬産農産物のブランド化	取組みほ場(信州の環境にやさしい農産物認証ほ場)面積26ha
		日本酒「黒菱」生産開発	毎回約100名参加
戦略3	観光の魅力要素の次世代へ自然環境資源の保全の継承	公用車のプラグインハイブリッド車導入	1台導入
		第2期白馬村食育推進計画策定	施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。
戦略5	5-1. 地場産業と連携した地域経済の強化	北アルプス農畜産物ブランドB級グルメメニュー	白馬つけみそラーメンが受賞
		第2期白馬村食育推進計画策定	施策に「地場産品供給ルートの整備」を掲げる。
		第2期白馬村食育推進計画策定	地産地消推進の店(仮称)制度創設を予算化
戦略6	観光を支える担い手の育成・支援	白馬創業塾の開催	過去3年間で118名の受講があり、内40人が宿泊業や飲食業を創業した。
		第2期白馬村食育推進計画策定	地産地消推進の店(仮称)制度創設を予算化
戦略8	8-2. 地域全体での白馬ブランド構築	白馬村の魅力に関する品質保証の構築	
		第2期白馬村食育推進計画策定	地産地消推進の店(仮称)制度創設を予算化
戦略9	計画推進体制の構築と財源の確保	9-1. 観光推進体制の見直し	hakubavalleyDMO候補法人登録
		9-2. 観光振興のための財源の確保	地方創生加速化交付金、推進交付金、元気づくり支援金の活用
			平成31年4月に立上げ予定
			総額15,800,000

観光地経営計画について

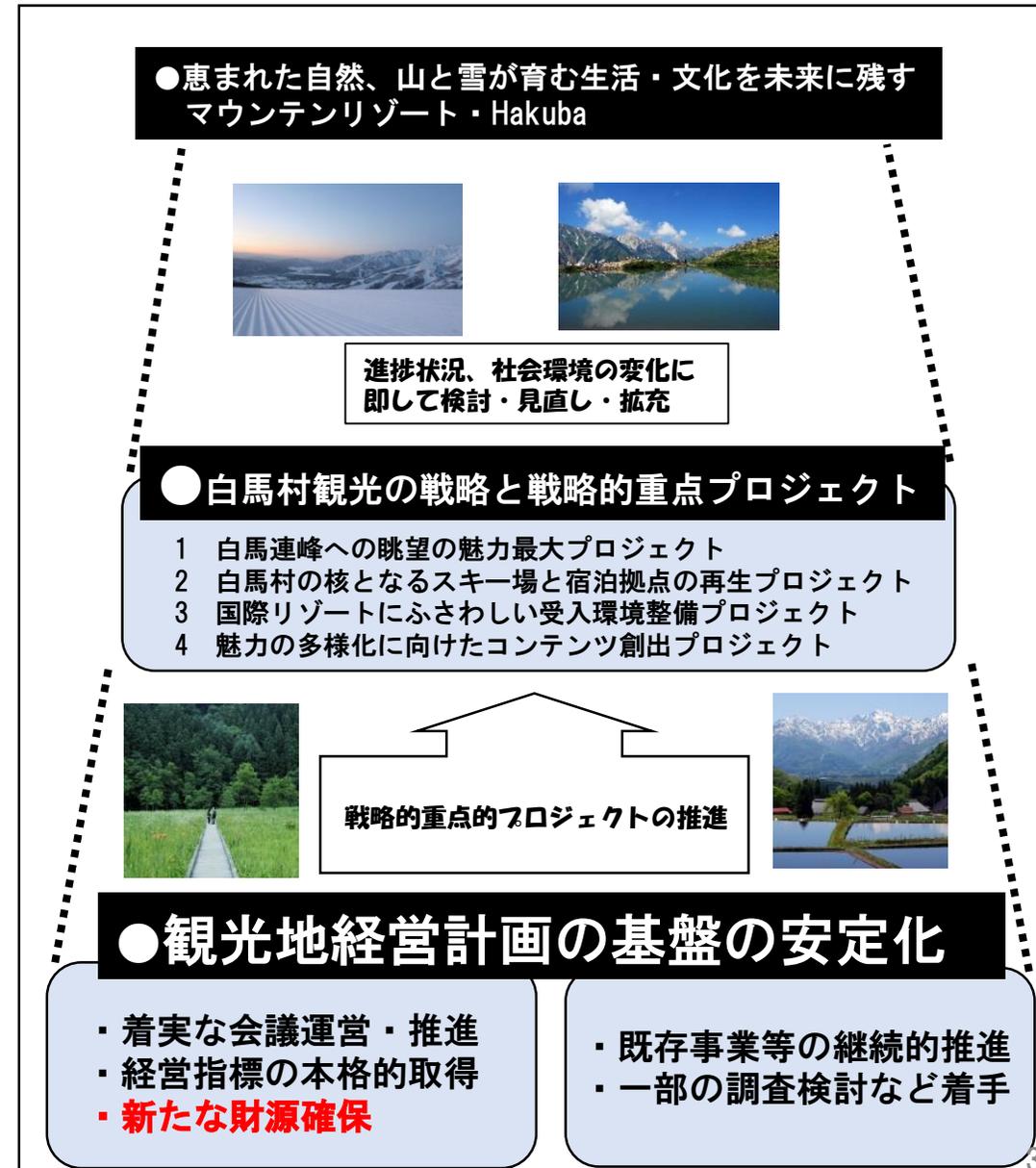
■計画推進のスケジュール



■観光地経営戦略の体系



■白馬村観光地経営計画を進展させるための概念図



観光地経営計画について

(観光地経営戦略に基づく施策、事業)

戦略	施策	事業（プロジェクト）	事業内容（主なもの）	実施主体
戦略1 観光の資産価値の最大化	1-1. 山岳景観の魅力向上	① 白馬連峰の眺望スポットの抽出	・白馬村内外の声を集約し、白馬連峰の美しい姿を眺める上で特に重要なポイントをエリア別等の切り口で抽出・集約し対外的に発信する。	行政 住民
		② 白馬連峰の景観の魅力最大化	・特に象徴的な白馬連峰への眺望スポットについて、景観を阻害している構造物の除去（主として電線の地中化等）を推進する。	行政
	1-2. 農村景観・集落景観の魅力向上	① 四季それぞれ美しい農村景観・集落景観の選定	・白馬村内外の声を集約して、四季それぞれに美しい農村景観や集落景観を選定する。	行政 住民
		② 農村・集落の花による修景	・農家の庭先や畦道、集落内での花の植栽等を導入し、美しく親しみやすい景観を演出するとともに、村民の観光に対する意識共有を図る。	行政 関連事業者・団体 住民
		③ 空き家等の保全と活用	・空き家の現状を把握するとともに、移住や店舗活用等、利用希望者とのマッチングを行う仕組みを導入し、景観面の保全と同時に生活文化の面でも保全を図る。	行政
	1-3. 滞在空間としての魅力向上	① 景観のコントロールによる滞在魅力の向上	・宿泊施設が集積した地区や白馬駅前など交通拠点の周辺地区を中心に、各種ルール等に基づいて良好な景観の形成を図り、滞在空間としての質を高め魅力向上を図る。	行政
		② オープンスペースの創出による滞在魅力の向上	・沿道部分のセットバック等オープンスペースを確保し、観光客が白馬連峰等を眺めながら心地よく過ごせる空間づくりを進め、滞在時間の延長を目指す。	行政 観光事業者
		③ 歩行者・自転車優先の安心で心地よい滞在空間づくり	・宿泊施設が集積する拠点を中心にカーフリーゾーンを設定し、スキーを担いで移動する冬季の安全性を確保するとともに、夏季も歩行者にとって心地よい空間づくりを進める。	行政
		④ 雨天時に対応可能な拠点づくり	・野外のフィールドでの活動が魅力の中心である白馬村において、雨天時にも白馬村で楽しく過ごすことが可能な拠点づくりを進める。	行政 観光事業者 関連事業者・団体
	戦略2 白馬村を訪れ滞在する価値の多様化	2-1. 季節それぞれの新しい楽しみ方の創出	① 屋内外でのアクティビティ充実	・安全面の充実を図りつつ、既存アクティビティの提供を積極的に進める。 ・屋内での体験・アクティビティなど天候の影響を受けにくいプログラム開発を進め、雨天時でも楽しめる魅力づくりを進める。
② スポーツプログラムの強化			・地域に蓄積されたスキーをはじめとするスノースポーツなどに関する技術的なノウハウを活用して、来訪者のレベルに応じた技術的支援を行うスポーツプログラムを充実させる。	行政 観光事業者
③ 教育・学習的なプログラムの開発			・個人客向けの自然解説プログラムや文化体験プログラムを開発して、白馬村の魅力を深く知ってもらうとともに、付加価値の高い商品を提供する。	観光事業者 教育機関
2-2. 食と温泉を活用した滞在魅力向上		① 白馬産食材の地産地消の推進	・地場食材を活用したメニューの研究・開発と調理のノウハウの共有を進めるとともに、それらのブランド化を推進する。	観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体
		② 白馬村の水や空気を活かした食の魅力向上	・それぞれの料理のジャンルにおいて、徹底して「白馬の水」にこだわった料理メニューの開発を進める。	行政 観光事業者 関連事業者・団体
		③ 温泉の特色を生かした魅力づくり	・強アルカリ性の泉質など白馬八方温泉の特色と効能を積極的に発信する。	観光事業者
		④ 食や温泉をテーマにしたイベントの創出	・HAKUBAガレットの食べ比べイベントや白馬産の食材にこだわったメニューの提供イベント、温泉施設の「はしご湯」イベントやスポーツイベントと組み合わせた入浴体験の実施など、白馬村の食や温泉を強く印象づけるイベントを定期的に開催する。	観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体
2-3. 歴史・文化・芸術・資源の継承・活用		① 歴史・文化資源の発掘と活用	・白馬村内各地区に残され地域の歴史文化を伝える価値ある郷土資料を集約して施設の充実を図るほか、新しい図書館などそれらの資料類を活用した新たな拠点施設の整備について検討する。	行政 観光事業者 住民
		② 歴史・文化資源を活用したプログラム開発	・歴史・文化資源を活用し、里山散策やサイクリングといった活動形態と組み合わせて、白馬村の人文的な魅力に触れるプログラム開発に取り組む。	観光事業者 教育機関
		③ 美術館や地元在住の工芸家との連携強化	・宿泊・滞在の魅力向上や宿泊需要の新規創出につながる連携プログラムを開発する。	行政 観光事業者 観光事業者
戦略3 観光の魅力要素の次世代への継承	3-1. 自然環境資源の保全	① 水資源の保全活動の推進	・白馬村の重要な地域資源である水資源の保全を図る。	行政 住民
		② 宿泊施設のエコ認証制度の創設	・環境配慮に関して独自の基準を設け、適合した施設をラベル表示する白馬村エコ認証制度の導入を図る。	観光関連団体 観光事業者
		③ エコカーや電気自動車、自転車の導入推進	・公用車をはじめとしてシャトルバスや公共交通にもエコカーや電気自動車を引き続き積極的に導入します。	行政 関連事業者・団体
	3-2. 文化・生活資源の保全	① 歴史・文化資源の発掘と活用 ＜再掲2-3. ①＞	・白馬村内各地区に残され地域の歴史文化を伝える価値ある郷土資料を集約して施設の充実を図るほか、新しい図書館などそれらの資料類を活用した新たな拠点施設の整備について検討する。	行政 教育機関 住民
		② 空き家等の保全と活用 ＜再掲1-2. ③＞	・空き家の現状を把握するとともに、移住や店舗活用等、利用希望者とのマッチングを行う仕組みを導入し、景観面の保全と同時に生活文化の面でも保全を図る。	行政

観光地経営計画について

(観光地経営戦略に基づく施策、事業)

戦略	施策	事業(プロジェクト)	事業内容	実施主体
戦略4 宿泊施設とスキー場の再活性化	4-1. 宿泊施設の戦略的な活性化	① 宿泊施設のサービス形態見直し・多様化による競争力強化	・宿泊拠点とスキー場が一体となった地区ごとに競争力強化を図る戦略的な将来ビジョンについて検討し、エリア内での合意形成を図るとともに、その将来ビジョンの方針に沿って各宿泊施設が独自の魅力の磨き上げに取り組む。	観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体
		② 宿泊施設のサービス共通化による効率化	・宿泊施設間で共通化しやすいと考えられる宿泊予約機能について、各地区あるいは村全体で共通化・効率化を図る。	観光関連団体 観光事業者
	4-2. スキー場の戦略的な活性化	① スキー場の施設更新による競争力強化	・スキー場と宿泊拠点が一体となった地区ごとに競争力強化を図る戦略的な将来ビジョンについて検討し、エリア内での合意形成を図る。	観光関連団体 観光事業者
		② スキー場のサービス共通化による効率化	・村内スキー場と隣接市村のスキー場との間でリフト券の共通化や、より使い勝手の良いシャトルバスの共同運行等、利用者の利便性向上を意識したサービスの共通化をさらに推進するとともに、効率化を図る。	観光関連団体 観光事業者
戦略5 地場産業と連携した地域経済の強化	5-1. 地場産品の活用促進	① 地場産品の流通ルートの確保	・食材を含む地場産品を適正な価格で域内流通させるルートの確保について検討を進めまる。	行政 観光事業者 関連事業者・団体
		② 地場産品の販売拠点の強化	・新たな道の駅の整備について地場産品の流通拠点の側面からも検討する。	行政 観光事業者 関連事業者・団体
		③ 白馬産食材を提供する飲食店の強化	・宿泊施設の飲食部門の見直しの動きとも連携しながら飲食店の誘致を進めてキャパシティ増強を図ると同時に、白馬産食材の活用・提供を推進する。	観光事業者 関連事業者・団体
	5-2. 域内調達率の向上	① 販売商品や原材料の域内調達率の向上	・販売商品や原材料を白馬村内から調達する比率を高め、観光消費が村外へ漏出することを抑制する。	観光事業者 関連事業者・団体
② 観光産業の地元雇用率の向上		・地元白馬村内からの雇用の比率を高めることにより、観光消費が村外へ漏出することを抑制する。	観光関連団体 観光事業者	
戦略6 観光を支える担い手の育成・支援	6-1. 観光産業界の人材確保・育成	① 観光産業界の人材育成	・接客セミナー、英語をはじめとする外国語でのコミュニケーション講座などを開催し、観光産業界のおもてなし向上を図る。	観光関連団体 観光事業者
		② 観光産業界の人材を確保する環境整備	・村民が観光産業界で働きやすい環境整備や観光人材バンクの創設に取組み、慢性的な人材不足を補う。	行政 観光事業者
	6-2. 新しい観光の担い手の育成・支援	① 白馬村民が白馬の魅力を知って伝える	・白馬マイスター制度を見直すなどして、白馬村が有する地域資源の発掘や地域の魅力創出、観光客への魅力の伝達等に取り組む地元人材の育成を図る。	行政 観光事業者 住民
		② 白馬高校国際観光科との連携強化	・白馬高校が設置する国際観光科と連携し、将来の白馬村観光を牽引する人材の育成に取り組む。	行政 観光事業者 教育機関
③ 観光関連事業の創業支援	・村外からの移住者も含めた観光関連事業の新規創業に対する支援や、農業や食品製造など他分野からの観光関連事業への参入をはじめ、当計画から派生することが想定される新たな観光関連ビジネスに対する支援を行い、新たな白馬村観光の担い手の創出に取り組む。	行政 観光関連団体 関連事業者・団体 住民		
④ 観光に対する意識の醸成・共有を図る場の充実	・白馬村観光に対する意識の醸成・共有を図るため、分野横断的に議論する場の充実を図る。	行政 観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体 教育機関 住民		
戦略7 誰もが安心できる観光受入体制の構築	7-1. 誰にでもわかりやすい情報提供	① 観光情報の一元管理・提供	・白馬村内の観光関連の情報について一元管理と定期的な更新を行い、最新の情報をわかりやすい形で提供する体制を整える。	行政 観光関連団体 観光事業者
		② 目的に即した情報発信ツールの活用	・居住地側で白馬村への興味喚起を図り旅行の計画につなげてもらうための情報、など、それぞれに適した媒体による適切な情報発信に取り組む。	観光関連団体 観光事業者
		③ 誰にでもわかりやすい案内標識類の統一	・紙媒体やwebで提供する案内マップ等と連動して誰にでもわかりやすく、景観にも配慮したデザインの標識類に統一を図る。	行政
	7-2. 誰でも利用しやすい滞在環境整備	① ひと目でわかるシャトルバスの運行	・運行路線別の色分けなどひと目で行き先がわかり、誰にでも利用しやすいシャトルバスを運行する。	行政 観光事業者
		② 冬場のタクシー不足の解消	・冬場の慢性的なタクシー不足を解消し、白馬村内での二次交通手段を充実させるための検討を進める。	行政 観光事業者
		③ クレジットカードによる決済環境の整備	・クレジットカードによる決済環境を整備し、主として外国人観光客の利便性向上を図ると同時に、環境の未整備による機会損失を防ぐ。	行政 観光事業者 関連事業者・団体
7-3. 危機管理体制の構築	① 災害発生時等に対応する危機管理体制の構築	・震災など甚大な自然災害発生時を想定し、観光客の安全確保も視野に入れた危機管理体制を構築し、安心して滞在できる観光地を実現する。	行政 観光事業者	

観光地経営計画について

(観光地経営戦略に基づく施策、事業)

戦略	施策	事業(プロジェクト)	事業内容	実施主体
戦略8 地域全体での 白馬ブランド の構築	8-1. 白馬村の魅力を徹底した 差別化	① 白馬村の先鋭的な魅力の差別化	・白馬村が有する地域の魅力の差別化ポイントをあらためて洗い出し村民が共有する。	行政 観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体 住民
		② 来訪者の声を活かした魅力の再発見	・宿泊施設、飲食施設、観光案内所等に来訪者から寄せられる声を集約・分析し、村内で共有、白馬村内の視点だけでは気づきにくい魅力について把握・整理する。	観光関連団体 観光事業者 関連事 業者・団体
	8-2. 白馬村の魅力に関する品 質保証	① 白馬産食材を活用した食の認証制度	・それぞれの白馬産食材を特色づけているストーリーを整理すると共に、それら食材を活用して提供される料理あるいは提供する飲食店を認証する制度の導入を図る。	観光関連団体 観光事業者 関連事 業者・団体
		② 宿泊施設のエコ認証制度の創設 <再掲3-1、②>	・環境に配慮した製品の使用を推進するとともに、それらに適合した施設をラベル表示するエコ認証制度の導入を図る。	観光関連団体 観光事業者
	8-3. 白馬村の魅力情報伝達力 向上	① 情報媒体のデザイン統一	・パンフレット類のデザインや判型の統一、ロゴやキャラクターの積極的な活用推進に取組み、白馬村の魅力に関する情報の伝達力を高める。	観光関連団体 観光事業者 関連事 業者・団体
	戦略9 計画推進体制 の構築と財源 の確保	9-1. 観光推進体制の見直し	① 既存組織を含む推進体制の見直し	・白馬村の観光推進に必要な機能と現状の主体別役割分担を再整理し、計画推進を進める上でより実効的な体制を整える。
② 周辺地域との広域連携体制の構築			・冬季中心のHakuba Valleyの動きも含め、大町市・小谷村との連携による観光推進体制を構築し、共同でのプロモーションに加え、広域での体験メニューの開発などに取り組む。	行政 観光関連団体
③ 日本国内での連携体制の構築			・スキー目的の訪日外国人観光客の急増という状況を共有する北海道ニセコ地区等と相互の情報共有を図ると共に、共通の課題解決に向けた連携体制を構築する。	行政 観光関連団体
9-2. 観光振興のための財源の 確保		① 受益者負担による新規財源の検討	・宿泊拠点や山岳域の環境保全、観光地全体の景観整備など、目的に即して柔軟に活用できる新たな財源のあり方について検討を進める。	行政 観光関連団体
		② 外部からの多様な資金調達方策の検討	・ふるさと納税の活用や募金つきの着地型ツアーの開発、環境保全に対する基金の設置等、事業の特性・性格や規模に応じて活用できる新たな財源のあり方について検討を進める。	行政 観光関連団体 観光事業者 関連事業者・団体
戦略10 計画推進の基 盤となる統計 の整備	統計データの取得・蓄積	① 統計データの取得体制の構築	・観光地経営の観点から必要となる統計データを取得するための体制づくりを進める。	行政 観光関連団体 観光事業者
		② 統計データの共有・活用	・取得した統計データ及びその分析結果を村内で共有し、白馬村観光の正確な現状把握や事業評価に活用する。	行政